



五・一五事件は、どんな事件だったの



東京を混乱させ、軍部に政権をにぎらせて、国のしくみを変えようとした、軍人・農民らの反乱だよ。

1932年2月に前大蔵大臣の井上準之助が、3月に三井財閥のリーダーの團琢磨が、暗殺されました。警視庁は、犯人2人の後ろに、日蓮宗の僧で右翼の井上日召をリーダーとする、血盟団というグループがあることを知り、十数人を捕らえました。彼らは大学生・農村青年たちで、生活の苦しい農民を救うには、政治家・財界人らを殺し、国のしくみを変えなければならない、と考えていたようです。3月に日召が自首して、血盟団はなくなりました。

青年将校・農村青年らが、反乱計画を立てた

しかし、日召の影響を受けた、茨城県の農村青年グループの幹部、海軍の青年将校、陸軍士官学校の生徒らは、反乱を起こす計画を立てました。それは、軍人が首相官邸・銀行などをおそうとともに、農民決死隊が変電所をおそって、東京を暗やみにし、混乱を起こして、戒厳令をしかせ、荒木貞夫(当時の陸軍大臣)を首相とする軍部政権を打ち立てよう、というものでした。

首相官邸・変電所などをおそい、犬飼毅首相を射殺した

同年5月15日の夕方、軍人らは、首相官邸・内大臣邸・政友会本部・警視庁・日本銀行・三菱銀行本店をおそい、ピストルをうったり、手榴弾を投げたりしました。農民決死隊は、東京電力の田端・亀戸など6変電所をおそい、機械をこわそうとしましたが、失敗しました。結局、犬飼毅首相を射殺したほかは、暗殺・破壊に成功しなかったのです。翌年、42人が軍法会議や裁判にかけられました。軍の内部に、反乱側の行動を支持する人たちがいたことから、農民決死隊のリーダーが無期懲役になったほかは、禁固4～15年の軽い刑ばかりになりました。

ことばの意味 戒厳令 戦争や非常事態のときに、国会・内閣・裁判所の権限の全部または一部を軍にうつして、治安を守らせる命令。 禁固 刑務所に入るだけで、働かなくてもよい刑。